

IUC の学生における漢字書字の誤り¹ —特徴と書字指導の試み—

当麻 文、大橋真貴子

【要旨】

アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターでは、**Special Kanji Intensive Program** を通して常用漢字を修得する。これは自主学習プログラムであり、学生は各自で漢字を学習しクイズを受ける。クイズには漢字を書く問題が含まれており、IUC にて 12 年にわたって約 560 名の学生における誤りの収集を行った。本報告では、これまで集めてきた誤りのうち一部をまとめ、それをもとに行った漢字の書字指導を取り上げる。

【キーワード】

中上級学習者、漢字の書き方指導、構成要素、SKIP

1 はじめに

1-1 SKIP

Special Kanji Intensive Program (以下、**SKIP**) とは、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (以下、**IUC**) のレギュラーコースで行われている漢字自主学習プログラムである。**SKIP** では『中・上級学習者のための漢字と語彙〔改訂新版〕: **KANJI IN CONTEXT [Revised Edition]**』(The Japan Times、2013 年。以下、**KIC**) が教科書として用いられている。**KIC** では常用漢字 (2136 字) が 156 回に分けて学習できるようになっている (青木 2015)。1 回分として学習する漢字数は平均 13 字であるが、学生は漢字 1 字だけではなく、それを使った語例 (熟語や慣用句など) も平均 23 語学習する。

学生は **KIC** に対応した **Web** アプリケーション、**WebKIC** などを使って各自で学習後、授業以外の時間に紙面のクイズを受ける (秋澤 2015、2016)。紙面のクイズは **SKIP** クイズと呼ばれ、**KIC** の回数と同じく 156 回分ある²。

KIC の 1 回分の学習方法は次の通りである。

- (1) **KIC** の 1 回分を勉強する
- (2) (1) で勉強した回の紙面のクイズを受ける
- (3) 担当者が採点して学生に返却する

1-2 IUC の学生の漢字書字力

IUC 入学時の学生の漢字書字力について明確なデータはない。ただ、多くの学生がアメリカの大学で日本語を勉強していることから次のことが推測できる。

アメリカの大学では、初級で『げんき』と『なかま』という教科書が使われ、終了後『上級へのとびら』という教科書が使われることが多い。『げんき』『なかま』では約 300 字、『とびら』では約 500 字を学習することになっている。これらの教科書には書字のワークブックや学習ソフトもあり、『とびら』終了後に IUC に来た場合、約 800 字学習していると考えられる。

ただ、IUC の学生全員がこうした教科書で日本語を勉強してきたというわけではなく、学生の漢字学習・習得状況は、年度によっても学生によっても大きく異なる。詳細なデータはないが、漢字、特に書字に関する授業をほとんど受けたことがない学生がいる一方で、既に常用漢字を習得し、翻訳者としての経験がある学生もいる。また、IUC では非漢字圏の学生が 9 割以上占めるが、近年、漢字圏の学生や、非漢字圏学習者でも中国語を学んだ経験のある学生が増えている³。

2 漢字書字の誤りの特徴

2-1 データの収集方法

SKIP クイズは 1 回 10 問で、漢字の読みの問題が 5~8 問、書きの問題が 2~5 問である。書きの問題は 1 回から 94 回の SKIP クイズ全てにある⁴。KIC 94 回までに 1200 字、2190 語が掲載されており、中上級の日本語教育機関では一般的に学習され、新聞に出てくる漢字の 95% 程度がカバーできるように作成されている（青木 2015）。

筆者の当麻は IUC で教材助手として 12 年間勤務し、約 560 名の SKIP クイズの採点を行い、よく見られる誤りを記録した⁵。本報告ではその一部を紹介する。

2-2 例の提示方法

IUC では漢字書字の採点の際、正誤の基準は KIC の「見出し字」である⁶。

以下では、例を示しながら誤りの特徴を説明する。例で、○と×がついている場合、○は正しい漢字または構成要素であり⁷、×は誤りである（例 1）。また、○も×もついていない場合は、2 つとも正しい漢字または構成要素である（例 2）。

また、例の上にかかれている漢字は、その誤りが生じやすい漢字である（例 2）。

なお、以下の手書きは当麻によるものである。

例 1

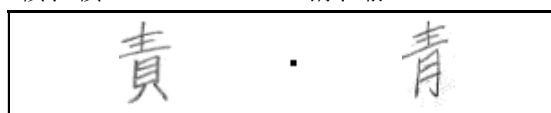
扨



例2

積、績

清、静



2-3 各特徴の説明と例

2-3-1 構成要素間のバランス

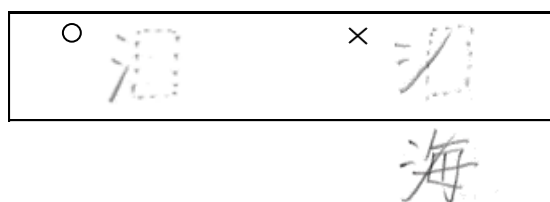
2-3-1-1 へんとつくりのバランス

へんが大きすぎてつくりに重なったり、へんとつくりがそれぞれ独立した文字に見えてしまう誤りである。「彳:さんずい」を含む漢字で説明すると、例1ではカタカナの「シ」が「毎」に重なっており、例2ではカタカナの「シ」と「毎」の2字が書かれているように見える。このようなことは、1字に見えるはずがない「扌:手へん」でも起こり、例3で示した通り2つの文字が並んでいるように書かれることがある。

また、構成要素間のバランスが悪いため1字が3字に見える場合もある。例4で示したように、縦に3つに分けられる字は各幅をすべて同じにしなければならないが、それらの幅が均等でないために3つの文字が並んでいるように見える誤りもある。そうしたことは「湖」「術」「街」「働」「衛」などで見られる。

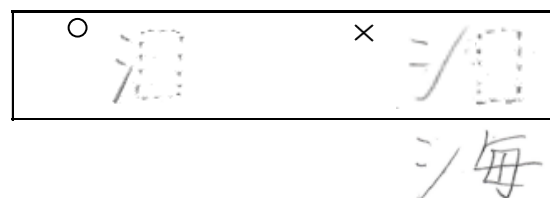
例1

「彳」と「毎」が重なる



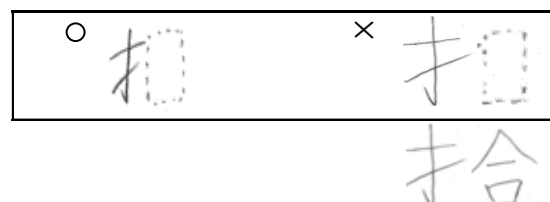
例2

「シ」と「毎」の2字に見える



例3

「扌」と「合」の2字に見える



例4 「シ」「古」「月」の3字に見える



2-3-1-2 その他

一つひとつの構成要素自体は正しいが、その大きさ、長さ、位置のせいで、全体的にまとまりがなく極端にバランスが崩れている字がある。以下はよく見られる例である。

例1 器



例2 死



例3 置



例4 落



例5 以、似



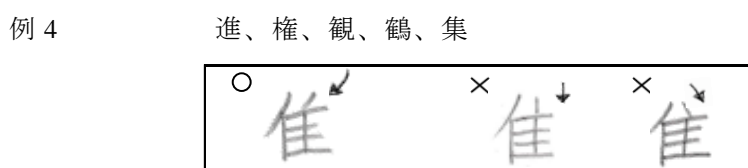
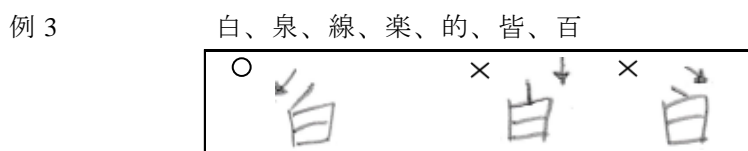
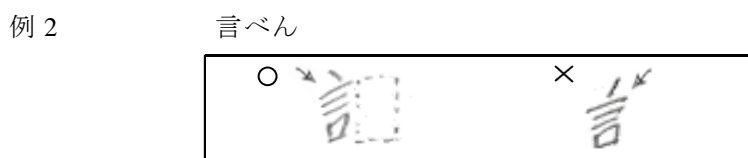
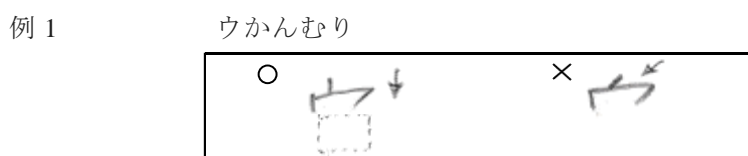
例6 必



2-3-2 構成要素の向き

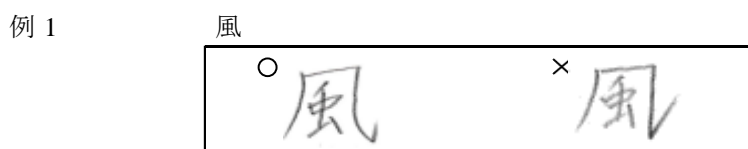
例1のように「𠂔：ウかんむり」の1画目はまっすぐ書くべきだが、右上から左下に斜めに書かれることがある。同様の誤りは「卒」などの「𠂔：なべぶた」を含む字にも生じる。また、「言べん」の1画目は左上から右下に書くのが正しいが、例2のように、右上から左下に書く誤りもよく見られる。

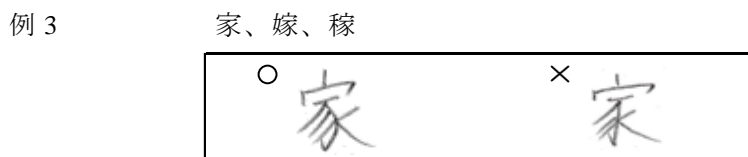
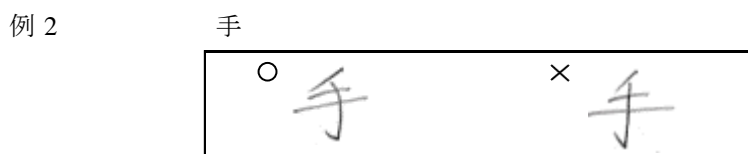
例3では、「白」の1画目は左斜め下へ短くはらうのが正しいが、垂直になるか、または、左上から右下に向かって書かれている。同様の誤りは「舟」「血」の1画目、「進」の3画目や「権」の10画目でも生じる（例4）。



2-3-3 曲線の直線化

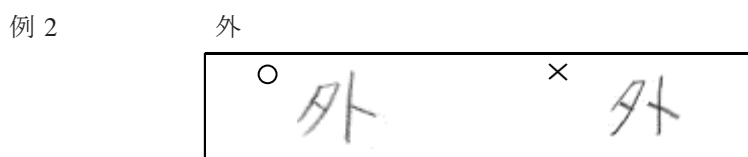
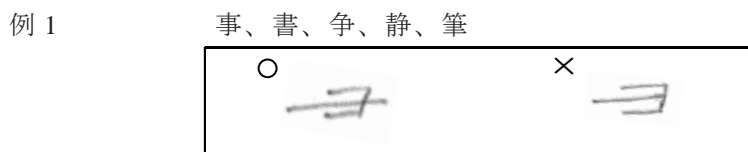
「風」では2画目の外側への曲線が直線に、「手」の4画目や「家」の6画目では内側への曲線が直線になっている。同様の誤りは、「家」を構成要素として含む「嫁」や「稼」でも見られる。





2-3-4 交差の有無

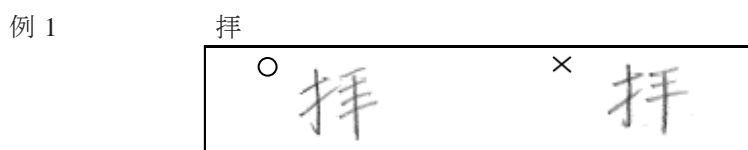
これは、例1のように交わる線から出るべきなのに出なかったものや、例2のように交わる線から出るべきではないのに出てしまっている誤りである。



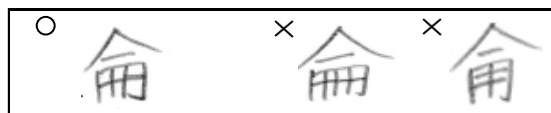
2-3-5 本数の増減

よく見られる誤りは、連続する横線の本数が多すぎたり少なすぎたりするものである。「扨」は4本書かなければならないが、2本や3本しかないことがある。「達」「遅」「業」では、連続する横線は3本であるが、2本や4本になったりする。

類似した誤りとして挙げられるのは、交差する縦線と横線の本数が正しいものより多かったり少なかったりするものである(例2)。



例2 輪、論、倫



2-3-6 接触の有無

例1のように、2本の線が接触してはならないのに接触している誤りや、例2のように、接触すべきなのにしていない誤りが見られる。

例1 分



例2 谷



2-3-7 2画の連結

例1にあげた「方」は1画目と4画目は別々に書かれるべきだが、1本の線となり横線を貫いている。同様の誤りは「方：方へん」を含む字にも見られる。また、「番」の5画目と11画目を続けて書いたり（例2）、「着」の4画目と7画目を続けて書いたりする誤りも見られる。

例1 方、放、防、訪、坊、妨



例2 番、翻

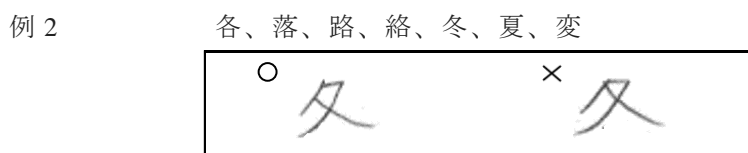
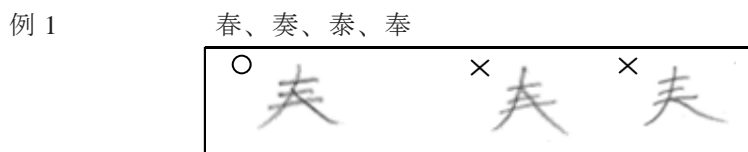


2-3-8 書き始めの位置

「春」の5画目の右はらいは2画目の横線から書き始めなければならないが、1画目の横線や、3画目の横線から書き始める誤りがある。同様の誤りは「券」や「巻」の上部にも見られる。6画目の右はらいは3画目の横線から書き始めなければならないが、4画目の

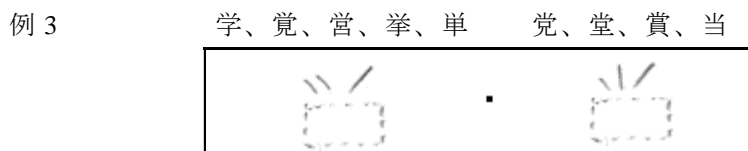
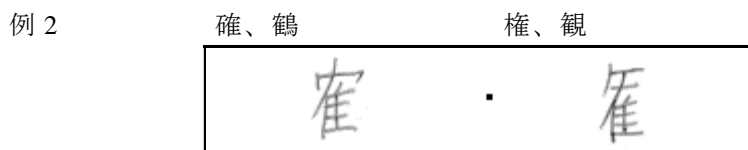
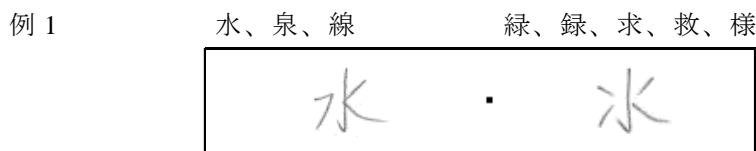
横線から書き始めてしまうのである。

また、例2のように、3画目の払い、1画目の真ん中あたりから書き始めなければならないが、1画目と2画目の始筆の位置と同じところから始める誤りも見られる。



2-3-9 別の字にある類似した構成要素

例1にあげたように「泉」を書く際、「白」の下に「水」を書かなければならないが、「氷」が書かれていることがある。逆に「緑」を書く際に「水」を書いてしまう誤りが見られる。このような混同が起こる場合を、例2～14に挙げた。



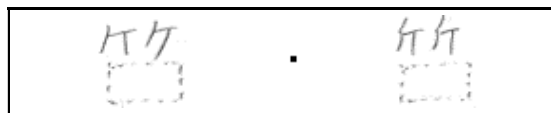
例 5

難 勤



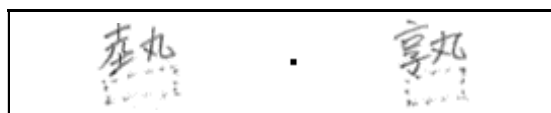
例 6

第、笑、簡、符 質



例 7

熱、勢 熟、塾



例 8

力、協、幼、効 刀、解、契、喫、潔



例 9

未 末



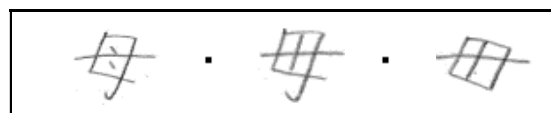
例 10

耳 聞、聖、廠 最



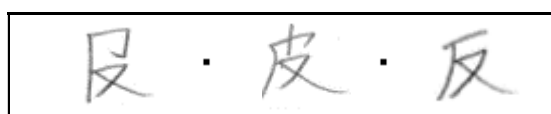
例 11

母 每、海、梅 貫、慣



例 12

服、報 皮、波、彼 反、板、飯



2-3-10 同字内の類似した構成要素

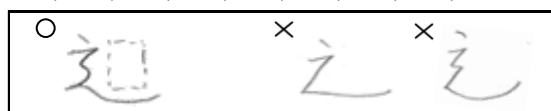
例1~4のように、似ているが異なる構成要素を書かなければならないのに、同じ構成要素を書いてしまう誤りが見られる。それと比べると少ないが、同じ構成要素を書かなければならないにもかかわらず、似ている構成要素を書いてしまう誤りもあり、例5の「能」「態」「熊」に見られた。

- 例1 比、批、混、皆、階
- | | | | |
|---|---|---|----|
| ○ | 比 | × | 匕匕 |
|---|---|---|----|
- 例2 歌
- | | | | |
|---|---|---|---|
| ○ | 哥 | × | 哥 |
|---|---|---|---|
- 例3 婦、婦、帯
- | | | | |
|---|---|---|---|
| ○ | 巾 | × | 巾 |
|---|---|---|---|
- 例4 競
- | | | | |
|---|---|---|---|
| ○ | 競 | × | 競 |
|---|---|---|---|
- 例5 能、態、熊
- | | | | |
|---|----|---|----|
| ○ | 匕匕 | × | 匕匕 |
|---|----|---|----|

2-3-11 その他

(1) 「迤：しんにょう」の曲線が再生できない

道、遠、近、遅、遊、返、通、送、進



- (2) 「夕：のぶん」の2画目と3画目をつなげて書く

教、数、放、敬、政、故、敗、警、驚



- (3) アルファベットの「V」に見える

金、弟、説、普、増、尊、導、羊、首



- (4) 「号」の下部が書けない



- (5) 「費」の上部が書けない



3 漢字の書き方指導

3-1 実施の経緯

IUC では、漢字学習を促すために全学生が一斉に受けなければならない漢字の試験があり、KIC 統一試験と呼ばれている（大橋 2016）。この試験には SKIP クイズ同様、書きの問題がある8。試験対策として漢字を書く際に気をつけるポイントを学びたいと考えた学生からの要望で、今年度初めて希望者に漢字の書き方指導を計4回行った。各回1時間前後で、2～10人が参加し、当麻と大橋が指導を担当した。

紙面の都合上、KIC59回～78回が試験範囲であった1回目の書き方指導について、以下で説明する。

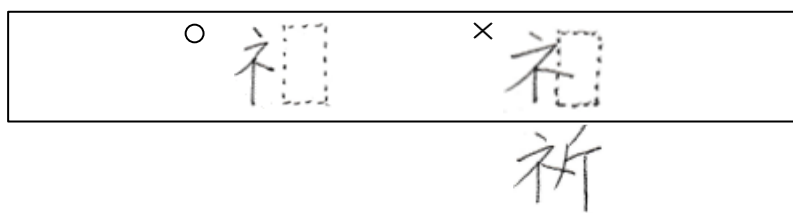
3-2 指導例

祈 [60回]

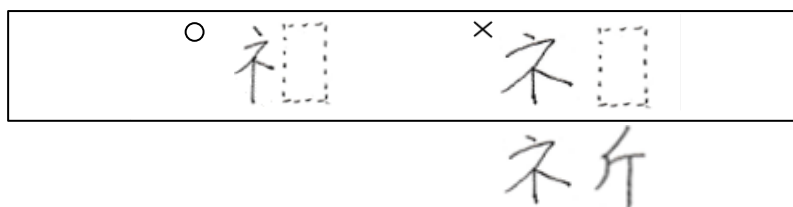
2-3-1に示したように、へんとつくりのバランスがとれていないために、1字が2字に見えてしまうことがある。そこで、「祈」を取り上げ、「へんはつくりは遠慮する」と話して、へんとつくりのバランスが理解できるよう指導した（例1、例2）。また、しめすへん

以外のへんの大きさや形についても取り上げ、(1)~(4)のように説明した。

例1 しめすへんとつくりが重なる



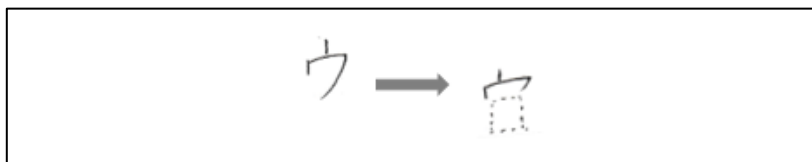
例2 しめすへんとつくりがそれぞれ1字ずつに分かれて見える



- (1) 「へんの最後の画を伸ばさないで、短くとめる」
 例： 禰、木、火、禾、米、貝 : 祈、村、焼、秋、料、貯
- (2) 「へんの最後の画を短くはねる」
 例： 禰、ネ、金、土、耳、王 : 拾、海、銀、地、聴、理
- (3) 「『食』より1画少ない」
 例： 食 : 飲、館
- (4) 「左3分の1くらいの幅に細く書く」
 例： 日、目、口 : 曜、眠、吸

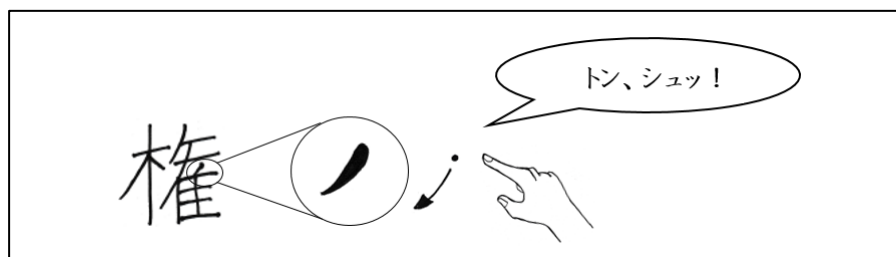
完 [60回]

2-3-2 に書いたように、「宀：ウかんむり」の1画目を垂直に書かずに右上から左下に書く誤りが見られる。そこで、まず、カタカナの「ウ」の1画目が垂直に書かれていることを確認し、次に、それが押し潰された形がウかんむりであると説明した。また、他のウかんむりの漢字、例えば「空」や「宇」などを学生に挙げてもらい、形を確認した。



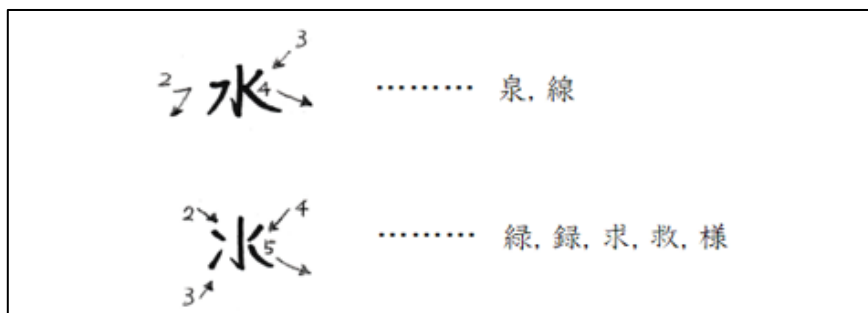
権 [59回]

2-3-2 に書いたように、「権」の10画目は右上から左下へはらわなければならないが、垂直や、または、左上から右下に書かれることが多い。これを直すためには、左はらい、つまり、書き始めの部分に力を入れ、一気に左斜め下へ筆を運ぶ、という書き方を教えるのが効果的だと考えた。そこで、音と体で書き方を覚えてもらうために、「トン、シュッ！」と言いながら人差し指で紙の上をはらわせる練習をさせ、その後、鉛筆で紙に書かせた。



求 [70回]

2-3-9 で示したように、「水」と「氷」は混同されることが多い。そこで「求」の字形を確認し、「氷」のイメージを伝えるために「ピャッピャッピャッピャッ」と言いながら手で4回水を放つ動きをした。また、「氷」を含む漢字として「求」「救」「緑」「録」「様」を、「水」を含む漢字として「泉」「線」を挙げ、混同しないように指導した。



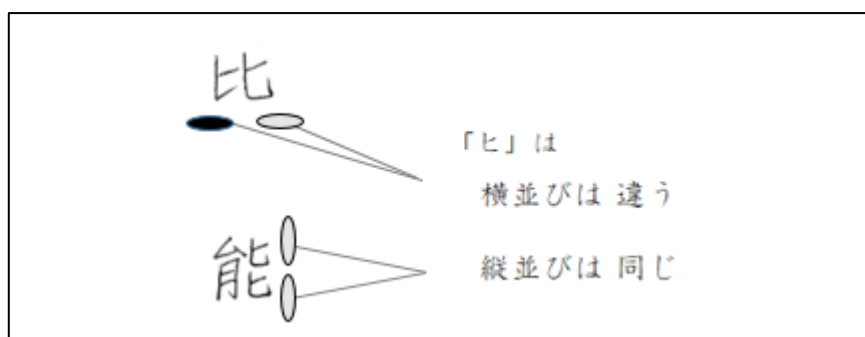
報 [66回]

2-3-9 に示したように、「報」の「𠂔」は「皮」や「反」と書かれることが多い。そこで、「𠂔」を含む常用漢字は「報」と「服」の2字しかないと教えた。また、68回の「波」は「皮」を含み、75回の「板」は「反」を含むと教え、「報」との違いを強調した。

反 報, 服 (2字のみ)
皮 皮, 波, 彼, 被
反 反, 板, 坂, 飯

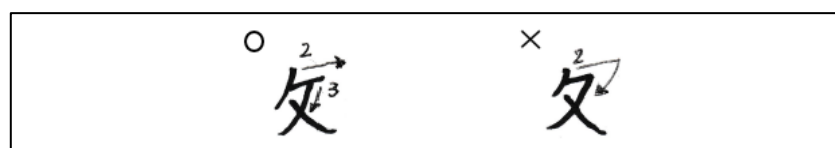
混 [62回]

2-3-10 で示したように、「比」では2つの類似した異なる構成要素を書かなければならないが、同じ構成要素を書いてしまう誤りが見られる。「混」を教える際、2つの「ヒ」は似ているが、実は違う形であると説明した。また、学生から、「比」や「混」のように「ヒ」が2つ横並びになる場合は形が違い、「能」のように「ヒ」が縦並びになる場合は同じ形になるとの指摘があった。



枚 [75回]

2-3-11 で示したように、「女：のぶん」の2画目と3画目をつなげて書く誤りが見られる。そこで、「枚」の書き方を指導する際、画数を意識づけることとした。画数を言いながら人差し指で空書させた後、紙に書かせた。また、「教」「数」ものぶんを含むことを確認した。

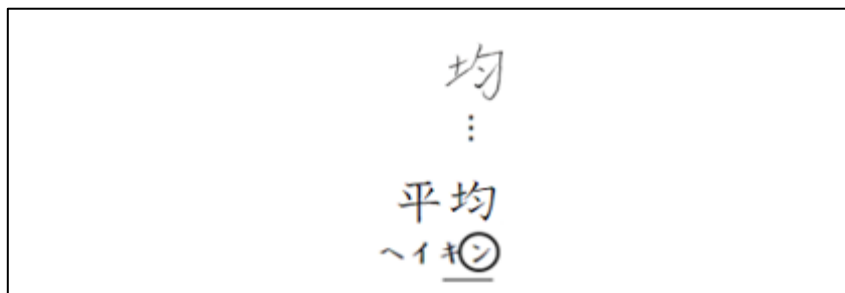


均 [77回]

以上の教え方の他に、記憶しやすいような話を作って指導した。「均」の「勻」を「勺」

と書く誤りがよく見られるので、「均」が正確に書けるよう「平均のキ『ン』だから、中はカタカナの『ン』を書く」と話した。

同様に、69回の「督」では、「目」を「日」と書く誤りが多いため、「監督は目を光らせるから『目』を書く」と説明した。



3-3 指導に対する感想

指導後に出席した学生数名と話したところ、日本人と違って正誤の区別もなかなかできず、また、漢字を書く習慣もないため、書く際に気をつけなければならないポイントを知るのには役に立つという感想があった。また、同じように書き間違ってしまう漢字をまとめて教える方法も好評だった。こうした感想からも、書字指導の際、どのような誤りをしがちなのかを学生に教える必要性を感じた。

4 今後の課題

本報告では、学生の漢字書字の誤りのうち11種類をとりあげ、それを用いた指導について8例紹介した。

まだ調査は始めたばかりであり、例として示したものも当麻の手書きにとどまっている。今後は学生が実際に書いた誤りを収集するつもりである。また、誤った字を書いてしまった理由について、形を正しく認識できなかったからなのか、正しく認識したとしても再生できなかったからなのかなど学生にインタビューしたいと考えている。こうしたことを通して誤りの分類を進め、中上級の日本語学習者特有の誤りの有無について考察したい。同時に、漢字書字の指導を行っていくつもりである。漢字を書くことに対して興味がわき、知的好奇心が高まるような指導法を考えていきたい。そして、書字の際に注意すべき点を指導した後、学生の認識力や書字力に変化が見られるかどうかを検証したいと考えている。

注

- 1 国語分科会の「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）」では、「字の細部に違いがあっても、その漢字の骨組みが同じであれば、誤っているとはみなされない」としている。こうした状況を理解しているが、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターでは、漢字指導のために用いている教科書『中・上級学習者のための漢字と語彙〔改訂新版〕：KANJI IN CONTEXT [Revised Edition]』（The Japan Times、2013年）の「見出し字」の形の通りに書くこととし、それ以外は誤りとしている。それは、教材助手の間で正誤の評価の違いができてしまうことを防ぐという便宜上の理由と、学生には基本となる形をまず覚えてほしいという教育上の理由がある。
- 2 実例を稿末の資料に示した。
- 3 このような学生が IUC のクイズやテストで書いた簡体字や繁体字は誤りとされる。
- 4 SKIP クイズ 95 回以上は読みの問題のみになる。
- 5 IUC で SKIP の採点は、出勤日が違う教材助手 2 名が担当する。筆者当麻は教材助手として 2006～18 年に勤務していた。日本語教師としての経験もあり、IUC では授業を担当することはないが採点の他に教材作成、学生との会話練習、試験監督など幅広くコースの業務に関わっていた。
- 6 国語分科会の「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）」では「手書き文字と印刷文字の表し方には、習慣のちがいがあり、一方だけが正しいのではない」としている。注 1 で述べたように、IUC では KIC の「見出し字」の形の通りに書くこととしているため、印刷文字の形を書くことを認めていない。
 学生が書いた字のなかにも印刷文字に影響を受けたと思われる字も見られる。これらは見出し字と画数が違うこともあり、IUC では誤りとしている。例えば、「衣」の 4 画目、「良」の 5 画目、「震」の 13 画目は 1 画であるが、2 画に分けて書かれている。また、「糸」の 2 画目、「畜」の 4 画目も 1 画であるが、2 画に分けて書かれている。
- 7 本報告で構成要素とは、部首と同じ場合もあるが、それより小さい部分を指す場合もある。1 画の場合もあり、複数画の場合もある。
- 8 配点は、書き 25 点、意味 25 点、読みの問題 50 点で、60 点未満の者は再試験を受けなければならない。

参考文献

- [青木惣一 \(2015\) 「『改訂新版 Kanji in Context』開発の基本コンセプトと想定する学習手順」](#)
 『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター教育研究年報』第 5 号
- [秋澤委太郎 \(2015\) 「『Kanji in Context』を Web から使う－長期的な使用に耐える多目的教](#)

- [育リソースの構築とその活用例ー](#) 『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター教育研究年報』第4号
- [坂澤委太郎 \(2016\) 「WebKICの改良とそれに対する学生の反応」](#) 『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター教育研究年報』第5号
- アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (2013) 『中・上級学習者のための漢字と語彙〔改訂新版〕 : KANJI IN CONTEXT [Revised Edition]』 The Japan Times
- 伊奈垣圭映 (2016) 『ちがいがわかる対照表 日本の漢字 中国の漢字』 水山産業出版部
- ヴォロビヨワ ガリーナ (2014) 「構造分解とコード化を利用した計量的分析に基づく漢字学習の体系化と効率化」 (政策研究大学院大学、博士論文)
- ヴィモンヴィタヤー チョーラッター (2013) 「非漢字圏学習者の漢字字形の識別に関する事例研究ータイ人高校生日本語学習者を対象にしてー」 『筑波大学地域研究』第34号、pp.247-270
- 大橋真貴子 (2017) 「KIC 統一試験の報告ー学習意欲を高める漢字試験への模索ー」 『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター教育研究年報』第6号
- 岡まゆみ他 (2009) 『上級へのとびら : コンテンツとマルチメディアで学ぶ日本語』くろしお出版
- 海保博之 (2001) 「非漢字圏日本語学習者に対する効果的な漢字学習についての認知心理学からの提言」 『筑波大学心理学研究』第23号、pp.53-57
- 加納千恵子 (1988) 「外国人学習者にとっての漢字の字形の複雑性」 『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』第3号、pp.95-121
- 河野玉姫、松本隆 (1993) 「中上級日本語学習者の漢字学習方法に関する予備調査結果ー漢字習得における書字の必要性を中心としてー」 『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター紀要』第16号、pp.55-67
- 講談社編 (1988) 『現代書道講座 (5) ペン字編』
- 駒井利江 (1993) 「知覚運動過程を重視した漢字書字指導方略のための調査研究」 『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』第5号、pp.1-26
- 坂野永理他 (2011) 『初級日本語げんき I・II』 The Japan Times
- 谷口美穂 (2017) 「非漢字系日本語学習者の漢字を困難にする諸要因」 『日本語教育』167号、pp.1-12
- 豊田悦子 (1996) 「個別漢字の形特性と出力との関係」 『ICU 日本語教育研究センター紀要』第5号、pp.25-43
- 西口光一 (1993) 「中上級漢字教育システムの新しいコンセプトと教材の開発」 『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター紀要』第16号、pp.29-54
- 林朝子 (2018) 「非漢字圏日本語学習者書字による平仮名の特徴ー概形・筆脈を中心にー」 『三重県大学教育学部研究紀要』第69巻、pp.91-96

- 福岡教育大学板書教育プロジェクト (2008)『板書技法と手書き文字文化』木耳社
- 牧野成一他 (2008)『Nakama: Introductory Japanese : Communication, Culture, Context』Heinle & Heinle Pub
- 宮地裕、甲斐睦朗監修 (2015)『日本語学』第34巻5号 明治書院
- 向井留実子 (2014)「中国人日本語学習者に対する漢字字形指導のための実態調査ー学習者の理解度と漢字の使用実態に即したシラバス構築を目指してー」『漢字・日本語教育研究』第3号、pp.138-195
- 長野県梓川高等学校放送部「漢字テストのふしぎ」日本ビクター主催東京ビデオフィステイバル 2007 年度大賞作品
- http://www3.jvckenwood.com/tvf/archive/grandprize/tvfgrand_29a.html
(2018年8月29日アクセス)
- 文化審議会国語分科会 (2016)「常用漢字表の字体・字形に関する指針 (報告)」
- http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/_icsFiles/afieldfile/2017/08/10/2016022902.pdf (2018年7月19日アクセス)
- 光村図書出版「『点画の書き方』の取り扱いについて」
- http://www.mitsumura-tosho.co.jp/material/pdf/kyokasho/s_shosha/iko/30s_tenkaku.pdf
(2018年7月19日アクセス)

資料 SKIP クイズの例

S K I P クイズ

第 1 1 回

名前 _____

I. 次の _____ のついている漢字の読み方を書きなさい。

1. 大事なアルバム

()

2. 写真

()

3. 親しい友

()

4. 同窓会

()

5. 親にそっくりな子

()

II. 次の _____ のついている言葉を漢字で書きなさい。送り仮名もつけなさい。

1. えいがを見に行く

()

2. しごと

()

3. しつもん

()

4. りょうりがうまい

()

5. しずかな部屋で勉強する

()